

学習者の動機づけを高める方法のモデル(ケラー、学習意欲の4つの側面)

【ARCS(アークス)モデル】

- 1 注意(Attention) 「面白そうだなあ」
- 2 関連性(Relevance) 「やりがいがありそうだなあ」
- 3 自信(Confidence) 「やればできそうだ」
- 4 満足感(Satisfaction) 「やってよかったなあ」

1 注意

学習者の興味を引き、探究心を喚起する。マンネリを避け、学習者に「面白そうだなあ」と思わせること。

2 関連性

学習目標に対して親しみをもたせ、与えられた課題を受身的にこなすのではなく、学習者が自分のものとして積極的に取り組めるようにする。目標に向かうプロセスを楽しめるようにし、学習者に「やりがいがありそうだなあ」と思わせること。

3 自信

ゴールを明示し、成功の機会を与える。自分の努力によって成功したと思えるような教材にし「やればできそうだ」と思わせること。

4 満足感

学習の結果を無駄に終わらせない。目標に到達した学習者をほめて認める。公平な評価を行い、「やってよかったなあ」と思わせること。